

# スポーツを見ることの面白さについて

竹内 啓

## 1. スポーツを見る楽しみ

スポーツの楽しみの中には、自分ですることのほかに、見る楽しみも大きいことは、改めていうまでもない。

スポーツを見る楽しみの中には、もちろん技術的にすばらしいプレーやプレイヤーの間の微妙な駆け引きというような、数学的定式化をすることが不可能に近い部分も非常に大きい。しかしその中のかなりの部分はやはり勝敗についての関心にあるといってもよいであろう。そうしてこの部

分は数学的に扱うことができるように思われる。そこでこの問題をいろいろな角度から考えてみよう。

## 2. 「興味度」の定義

スポーツの試合を見ているとき、一方がむやみに強くて必ず勝つのは面白くない。横綱と前頭5枚目のとり組みや、東京6大学のT大学とその他の大学との試合があまり興味をひかないのはこのためである。しかしそれでもたまには前頭5枚目の相撲が横綱に勝って「金星」をあげたり、T大学がW大学に連勝したりすると、これは興奮をまきおこす。

たけうち けい 東京大学 経済学部

## 「スポーツのOR PART-II」の特集に当って

東京工業大学 鳩山 由起夫

昨年 (Vol. 24) 4月号にスポーツのORを特集しましたところ、手前味噌ながら若干の反響をいただき、それではと柳の下に狙いを定めて第2弾を放つことになりました。ところが、日頃ストラテジーに口うるさいOR関係の方々も、時日を費して書くとなるといささか抵抗を示され、結局半数ほどを前回担当して下さった方に執筆していただくことになりましたことをお断わりしておきます。

スポーツをOR的に分析する観点はいろいろあります。内から眺めた戦術論は多くの読者の興味の中心かも知れませんが、外から眺めて共通の要素を探りを入れることには山師に似た喜びがあるでしょう。また、健

康の面からスポーツを捉えることは、次第にスポーツをしなくなってきている現代の人間にとってきわめて重要な問題と言えるでしょう。

さらに本特集では、プロ野球界で管理を實踐し、V9という形で完成された元巨人軍の川上氏とのインタビューを掲載します。ドラフト制により均等化されたチームの中で差を生むことに、管理能力の寄与はますます大となっていくでしょう。程度の差はあれ、平均化された社会にいる(と信じている)私どもにとり、自己管理をも含めて管理の重要性、むずかしさが痛感されます。